

7 教育委員会事務事業評価委員会の意見

施策 1 - 3 時代に対応した教育環境の整備・充実について

学校教育の充実、教育委員会の事業の中でも大きな柱となるものなので、何か押し出すポイントのようなものを、はっきりさせた方がよい。

和文大会では、東広島市の文化を全国へ発信でき、大変すばらしかった。

施策 1 - 4 家庭・学校・地域が連携した青少年健全育成の推進について

精力的に事業を進めているが、その効果がどこまであるかについては、分かりにくい分野である。

子どもが不安にならないような体制をとって、様々なアンテナを張ってもらいたい。

施策 1 - 5 市民が主体となった学習活動の充実について

公民館については、職員のレベルアップを図るなどかなり力を入れている。全ての市民に参加してもらうのが理想だが、リピーターがいるということは、魅力があったということなので、評価できる。

施策 1 - 6 生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成について

今後、市域において体育施設をどのように配置していくのか、整理する必要がある。

施策 2 - 2 安心して子どもを生み、育てられるまちについて

児童青少年センターは立地もよく、利用者も多く、よく活用されている。

施策 3 - 1 東広島らしさを継承し、創造できるまちについて

美術館は立地が悪い。ハード面の改善について考えるべき。

教育委員会議開催実績、教育委員の活動実績について

昨今、教育委員会のあり方が問われている中、危機管理や教員の質についてなど、指針を市民に示すときである。教育委員会として、そのような話題はでないのか

全体を通して

報告書にある「評価」は誰がしているものなのか、主体をはっきりさせなければならない。

評価するにあたって、具体的なデータが無ければ外部に対しての説得力に欠ける。

数値で示すのは難しい事業が多いが、目標値は定めてほしい。目標があって、どれだけ

達成できたかで評価になる。

評価については、中～長期的スパンで行った方がよい。

フロントランナーとして、東広島市の教育は頑張ってもらっていると思う。

報告書の公表については、市のホームページに掲載するなど、市民が閲覧しやすいように配慮すること。